

# 東京大学史史料室ニュース

第25号 2000・11・30

## 目次

ジョン・ヘンリー・ウィグモア文書 .....2  
 受贈図書一覧 .....5  
 史料室日誌抄録 .....8

明治十七年六月東京大学豫備門本費生徒學年試業優劣表

姓	名	年	級	算術	代算	幾何	三角	物理	化学	生物	地学	歴史	地理	漢文	和文	英語	合計	優等	合格	不合格
菅野	三郎	1874	1	85	80	75	70	65	60	55	50	45	40	35	30	25	700	優等	合格	不合格
藤田	次郎	1874	1	80	75	70	65	60	55	50	45	40	35	30	25	20	650	合格	合格	不合格
山田	太郎	1874	1	75	70	65	60	55	50	45	40	35	30	25	20	15	600	合格	合格	不合格
鈴木	一郎	1874	1	70	65	60	55	50	45	40	35	30	25	20	15	10	550	合格	合格	不合格
田中	二郎	1874	1	65	60	55	50	45	40	35	30	25	20	15	10	5	500	合格	合格	不合格
佐藤	三郎	1874	1	60	55	50	45	40	35	30	25	20	15	10	5	0	450	合格	合格	不合格
高橋	四郎	1874	1	55	50	45	40	35	30	25	20	15	10	5	0	0	400	合格	合格	不合格
中村	五郎	1874	1	50	45	40	35	30	25	20	15	10	5	0	0	0	350	合格	合格	不合格
小林	六郎	1874	1	45	40	35	30	25	20	15	10	5	0	0	0	0	300	合格	合格	不合格
西村	七郎	1874	1	40	35	30	25	20	15	10	5	0	0	0	0	0	250	合格	合格	不合格
山口	八郎	1874	1	35	30	25	20	15	10	5	0	0	0	0	0	0	200	合格	合格	不合格
石川	九郎	1874	1	30	25	20	15	10	5	0	0	0	0	0	0	0	150	合格	合格	不合格
清水	十郎	1874	1	25	20	15	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	100	合格	合格	不合格
山崎	十一郎	1874	1	20	15	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	合格	合格	不合格
斎藤	十二郎	1874	1	15	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高木	十三郎	1874	1	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
坂本	十四郎	1874	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田村	十五郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
佐々木	十六郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺	十七郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
森田	十八郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山本	十九郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松本	二十郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
林	二十一郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
森	二十二郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山	二十三郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田	二十四郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中	二十五郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	二十六郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	二十七郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	二十八郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	二十九郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	三十郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	三十一郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	三十二郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	三十三郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	三十四郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	三十五郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	三十六郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	三十七郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	三十八郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	三十九郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	四十郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	四十一郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	四十二郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	四十三郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	四十四郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	四十五郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	四十六郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	四十七郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	四十八郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野	四十九郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村	五十郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

姓	名	年	級	算術	代算	幾何	三角	物理	化学	生物	地学	歴史	地理	漢文	和文	英語	合計	優等	合格	不合格
菅野	三郎	1874	1	85	80	75	70	65	60	55	50	45	40	35	30	25	700	優等	合格	不合格
藤田	次郎	1874	1	80	75	70	65	60	55	50	45	40	35	30	25	20	650	合格	合格	不合格
山田	太郎	1874	1	75	70	65	60	55	50	45	40	35	30	25	20	15	600	合格	合格	不合格
鈴木	一郎	1874	1	70	65	60	55	50	45	40	35	30	25	20	15	10	550	合格	合格	不合格
田中	二郎	1874	1	65	60	55	50	45	40	35	30	25	20	15	10	5	500	合格	合格	不合格
佐藤	三郎	1874	1	60	55	50	45	40	35	30	25	20	15	10	5	0	450	合格	合格	不合格
高橋	四郎	1874	1	55	50	45	40	35	30	25	20	15	10	5	0	0	400	合格	合格	不合格
中村	五郎	1874	1	50	45	40	35	30	25	20	15	10	5	0	0	0	350	合格	合格	不合格
小林	六郎	1874	1	45	40	35	30	25	20	15	10	5	0	0	0	0	300	合格	合格	不合格
西村	七郎	1874	1	40	35	30	25	20	15	10	5	0	0	0	0	0	250	合格	合格	不合格
山口	八郎	1874	1	35	30	25	20	15	10	5	0	0	0	0	0	0	200	合格	合格	不合格
石川	九郎	1874	1	30	25	20	15	10	5	0	0	0	0	0	0	0	150	合格	合格	不合格
清水	十郎	1874	1	25	20	15	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	100	合格	合格	不合格
山崎	十一郎	1874	1	20	15	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	合格	合格	不合格
斎藤	十二郎	1874	1	15	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高木	十三郎	1874	1	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
坂本	十四郎	1874	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田村	十五郎	1874	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中	十六郎	1874	1	0	0	0	0	0												

ノースウェスタン大学大学史資料室所蔵  
ジョン・ヘンリー・ウィグモア文書

岩谷 十郎

1. はじめに

シカゴ郊外にあるノースウェスタン大学の大学史資料室(Northwestern University Archives、以下、大学史資料室と略)には、ジョン・ヘンリー・ウィグモア文書(John Henry Wigmore Papers、以下、ウィグモア文書と略)が保管される。ウィグモアは、1893年から同大学ロースクールの教授として教鞭をとり、1901年から1929年まで同ロースクールの長(Dean)の職にあった。証拠法学者として、また独創的な比較法学者として世界的に名声を博した彼が、その若い一時期を明治期の日本で、私立学校の法学教員として過ごしたことは余り知られていない。彼は、慶應義塾が1890年に開設した大学部法律科の初代主任教授として招かれ、1889年10月から1892年12月までの丸3年間、日本に滞在した。

2. ウィグモア文書-日本関連資料とは

私は、近代日本法史を専攻する観点から、かねてからウィグモア文書に分類される日本関連の文書に関心を抱き、1992年の夏には大学史資料室を実際に訪ねたことがある。その当時、整理途上にあつた膨大な量に上る文書群は、近時、大学史資料室より入手した同文書の内容リスト(John Henry Wigmore Papers, 1868-1996, Series 17/20)によれば、テーマ毎にかつ体系的に全245ボックスに互って整理と分類が施された。本稿は、特にウィグモアの日本での活動に関わる限りで、同文書の日本関連資料のいくつかを紹介することにしよう。

ウィグモア文書は、「伝記関係資料」、「一般のおよび主題別書信」、「ノースウェスタン大学ロースクール関係資料」、「軍関係記録」、「日本における滞在と活動および日本法や法慣習研究についての資料」(以下、日本関連資料と仮称)、「講演および小刊行物関係」、「図書およびその他の大きな刊行物関係」、それに「音楽関係」、といった8つの大きな範疇から構成される。<sup>\*1</sup> これらのうち、最も大きな資料群を成すのが「一般のおよび主題別書信」で100ボックス以上を数える。これにひきかえ日本関連資料は、全体で13ボックスを数えるに過ぎない(Boxes 177-189)。このうち10ボックスは、彼が滞日中、ことのほか関心を寄せた徳川時代の民事裁判・民事慣習についての翻訳関係資料に充てられ、それらの草稿から、彼の日本法認識の深化を測り出すことが可能となる。これは後に彼の大作“Law and Justice in Tokugawa Japan”(Part I~Ⅷ)に集大

成されてゆく。この日本関連資料には、ウィグモアの初来日時のもと、1935年の再来日時のもの、との双方が収録される。なお、日本関連資料の全体的な構造については、既に拙稿「ジョン・ヘンリー・ウィグモアの残した二つの契約書-『日本関連文書』の構造とその研究」(慶應義塾福澤研究センター『近代日本研究』第13巻・1996年)で明らかにしたのでここでは再論しないが、数年前のものであるため上記の最新のリストによるボックス番号と若干の齟齬が見られ、細かな点で対校を要す箇所が見受けられる。<sup>\*2</sup>

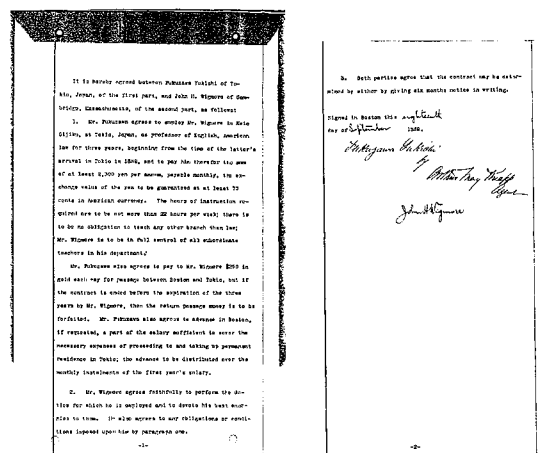
3. いくつかの資料紹介-日本関連資料から

ここでは、慶應義塾大学部法律科創設期の状況を、ウィグモア文書-日本関連資料の中に読み込んでみよう。

1) ウィグモアの雇用契約書

ウィグモアの日本との出会いは、福澤が慶應義塾に大学部を開設するにあたって、ユニテリアンチャーチの宣教師アーサー・メイ・ナップ(Arthur May Knapp)に「法律と社会-経済と英文学の専門家」として3人のアメリカ人教授の斡旋を依頼したことに遡る。ウィグモアを含むその3人の雇い入れについては、福澤が個人として随分と意を尽くしたようだ。<sup>\*3</sup> 1889(明治22)年9月18日の日付を持つウィグモアの雇用契約書によれば(資料1)、一方の当事者は慶應義塾ではなく、ナップの代理署名による福澤であった。また契約書には、ウィグモアには英米法を最大限週22時間教える報酬として2300円の年俸が支払われ、さらに片道250ドルの渡航費も支給されることが約束された。1887年にハーバードロースクールを修了した彼は、その時弱冠

<資料1>



福澤の署名のあるウィグモアの雇用契約書  
1889年9月18日付

26歳の若さであった。この契約の翌日、彼は数日前に結婚したばかりの妻エンマを伴って、日本へと旅立ったのである。

2) ウィグモア宛増島六一郎書簡

慶應義塾大学部におけるウィグモアの地位は法律科主任教授というものであった。その当初の務めは、慶應義塾における新たなる法律学校の教育プランをいわばゼロから構想し、かつそれに見合う教員（非常勤）を手当てすることであった。だが、1889年10月23日に横浜に着いたばかりのアメリカ人青年法律家にいかなる方策があるというのだろうか。

実際、翌年1月の開講時には、ウィグモアの他僅か2人の日本人法律家が講師に加わったに過ぎなかった。ところで、ウィグモア文書の次のような書簡に注目したい。

Azabu Nov<sup>r</sup> 9<sup>th</sup> 89

Dear Mr. Wigmore

I enclose the rules of our law school giving the subjects for examination and course of law in English as translated in pencil. I hope it may be of your wishes. Please tell Mr. Fukuzawa that I hope he will keep the standard of his school as high as possible so as to give a sound education really capable of giving a real training and that I shall myself be happy to be of any use for that purpose.

Yours sincerely

R. Masujima

11月9日付けのこの書簡は（資料2）、発信者である増島六一郎が創設し、1885（明治18）年7月に開校された英吉利法律学校の「学校規則」を、来日して間もないウィグモアが既に入手していたことを伝えている。当時の東京に存した英米法系の私立法律学校には、専修学校の他、この英吉利法律学校があった。そして慶應の大学部法律科もまたウィグモアを擁すことによりこの系列に連なるものであった。かつて私が、ウィグモアによって起草されたカリキュラム案を検討した際、各科目が英吉利法律学校のそれとかなり重なり合う事実を発見した。<sup>\*4</sup>しかもその原型は、帝国

<資料2>

*Handwritten letter from R. Masujima to W. Wigmore, dated Nov 9, 1889. The text is in English and matches the typed transcription provided in the document.*

ウィグモア宛増島六一郎書簡  
1889年11月9日付

大学総長による監督校として認可されるために順守が求められた「私立法律学校特別監督条規」（1886年）の中に例示されていた。英吉利法律学校はまさにその点を考慮したカリキュラムを定めたのである。もともと「監督校」や文部省の「特別認可校」にも属さなかった慶應にとっては、そうした条項は何ら規範性を持たなかったはずだが、その背景には増島による情報提供の支えが隠されていたのである。なお英吉利法律学校は、1889（明治22）年には東京法学院と改称され、増島は開校以来、校長・院長の地位にあったが、1891年に退いている。

3) ウィグモア宛ボアソナード書簡

ウィグモアが来日する少し前から、日本の法学界は法典論争で二分されていた。来日して約1年が経過する頃、彼は論争の渦中にあったボアソナードへの接近を試みた。こうして1891年1月から両者の間に書簡が交わされ、ウィグモアの手許には、ボアソナードから受け取った14通の書簡が残されたのである<sup>\*5</sup>（資料3）。「民法典の起源と旧慣との関係」を直接に尋ねてきたウィグモアに対し、当初、ボアソナードはいささか警戒の念を禁じえなかった。だが、真摯に学問的なやりとりを重ねてゆく中で、やがてボアソナードの側にウィグモアに対する法典論争を共に戦う同士の情が抱かれてゆくことが分かる。ウィグモアは、来日後程なくして着手した日本法（史）研究の蓄積から、延期派が喧しく言挙げするほどボアソナード民法典が日本の旧慣と矛盾するものではないことを、“Japan Daily (Weekly) Mail”誌上、無記名で数回に亘って連載した。ボアソナードもこれに応え、延期法案が議会を通過した後も、自らの法典の無欠性を立証するためにウィグモアの論文を彼の名前と共に引用し、論争が結局政治抗争に過ぎなかったことを改めて印象付けたのである。書簡には、日本という異文化の地にあつて、年

<資料3>

*Handwritten letter from Boissonnat to Wigmore, dated Kanagawa, 7 Feb 1891. The text is in French and matches the typed transcription provided in the document.*

*Handwritten letter from Wigmore to Boissonnat, dated Kanagawa. The text is in French and matches the typed transcription provided in the document.*

ウィグモア宛ボアソナード書簡  
1891年2月7日付

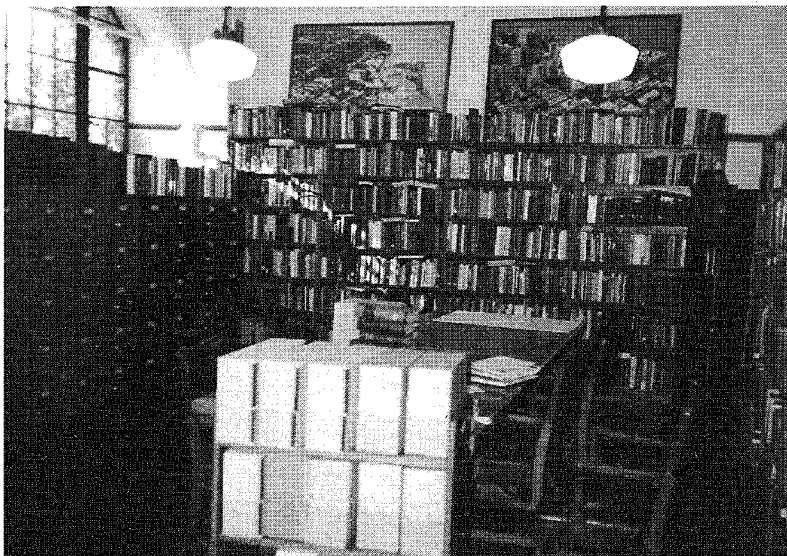
齡的には父と子ほどにも離れ、また大陸法と英米法という異なる法的素養を背景にした2人の外国人法律家の出会い、共感、それに別れが綴られているのである。

#### 4. おわりに

この春、ノースウェスタン大学ロースクール助教授で法人類学者の、アナリサ・ライルズ (Annelise Riles) 氏が訪ねて来られた。彼女はウィグモアの比較法思想についての実に詳細な研究を公にされており、\*6 しばし日本とウィグモアとの関係について語り合った。ウィグモアにとって日本／慶應義塾は、法学教育者として最初の歩みをするした場である。ライルズ氏との議論の中で、上に例示した大学史資料室の日本関連資料が、青年ウィグモアの記憶をいきいきと蘇らせてくれたことはいうまでもない。

ユニヴァーシティ・アーカイブズとして将来どのような課題を抱えるのか、という私の質問に答えて、大学史資料室の主任アーキヴィスト、パトリック・クイン (Patrick Quinn) 氏から、電子メールが届いた。やはり最も深刻な問題は保存スペースの不足にあり、大学関係資料の電子媒体化の作業に目下追われているというのである。だが、恒常的なスタッフ不足、特に記録・資料の管理や整理要員が現状のままでは確実に手薄となることを懸念しつつも、ウェブサイト上の検索援助の機能化を促進し、グローバルな利用者へのサービスをいっそう充実したいということである。そこには時代のチャレンジを受ける大学史資料室の姿があるが、なによりも「ノースウェスタン・コミュニティの歴史のあらゆる側面に関わる」記憶の貯蔵庫を自負する彼らの強い使命感も表れている。

[2000・11・03稿]



ノースウェスタン大学大学史資料室・  
閲覧室 (1992年夏)

(注)

- \*1 それぞれのボックスは、さらに事項ごとにくつかのフォルダーに分類される。こうした整理のシステムは次註のような事情があるにしても、以前と全く変わらない。
- \*2 本文中で挙げた拙稿では、整理過程でまとめられた“John Henry Wigmore Papers, Preliminary Container List, -Japanese Series-”に基づいた考察を行った。したがって、最新リストとはボックス番号などの不一致が生じたほか、従来「一般のおよび主題別通信文」として分類されたものの中で、日本人からのもの、例えば金子堅太郎、高柳賢三等からの書簡、あるいは西欧人であっても日本で出逢った人々、例えばチェンバレンやラフカディオ・ハーン、そしてボアソナードなどからの書簡については、最新リストはこの日本関連資料の中に収める。尤も拙稿で明らかにした資料体系・基本構造についての変化は全く認められない。
- \*3 詳しくは前掲拙稿「ジョン・ヘンリー・ウィグモアの残した二つの契約書」、36頁以下参照。
- \*4 拙稿「ウィグモアの法律学校－明治中期－アメリカ人法律家の試み」『法学研究』第69巻第1号・1996年参照。
- \*5 拙稿「ウィグモア宛ボアソナード書簡14通の解題的研究－民法典論争と二人の外国人法律家」『法学研究』第73巻第11号・2000年に、全書簡の復刻およびその訳文を訳註と共に収めた。参照されたい。
- \*6 Annelise Riles, “Wigmore’s Treasure Box: Comparative Law in the Era of Information”, in; Harvard International Law Journal, vol.40, no.1, 1999.

受贈図書一覧（平成12年2月～平成12年11月）

法政大学と戦後五十年 資料篇三 法政大学戦後50年史編纂委員会	平成12年1月	立教学院百二十五年史 資料編第5巻 学校法人立教学院	平成12年3月
愛媛大学五十年史 愛媛大学50年史編集専門委員会	平成11年11月	立教学院百二十五年史 図録 BRICKS AND IVY 学校法人立教学院	平成12年3月
東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ 遥 洋子	平成11年12月	嗚呼玉杯と矢野勘治 財団法人霞城館	平成12年4月
近代日本の戦争と政治 三谷太一郎	平成9年12月	神奈川大学史資料集 第十六集 法学科増設認可申請書 神奈川大学大学資料編纂室	平成12年3月
日本大学百年史 第二巻 日本大学百年史編纂委員会	平成12年2月	拓殖大学百年史研究 4号 拓殖大学創立百年史編纂室	平成12年3月
日本学術会議50周年記念シンポジウム記録集 大学院における政治学教育-21世紀に向けて-		教育審議会の研究 師範学校改革 野間教育研究所紀要第42集 清水康幸	平成12年2月
日本学術会議政治学研究連絡委員会 修士論文 終戦直後の大学改革についての歴史的分析 ～東京工業大学の場合～	平成11年12月	ふりがなの教育心理学的研究 野間教育研究所紀要第41集 小野瀬雅人	平成11年3月
岡田大士	平成11年2月	立命館平和研究 -立命館大学国際平和ミュージアム紀要-第1号	
東京大学の舞台裏 思い出すまに 江澤兵治	平成11年2月	立命館大学国際平和ミュージアム	平成12年3月
東京経済大学沿革資料 第二集 学校法人東京経済大学	平成12年3月	名古屋大学史紀要 第8号 名古屋大学史資料室	平成12年3月
同志社談叢 第20号 同志社社史資料室	平成12年3月	武蔵野美術大学年報 1996-1998 武蔵野美術大学大学史史料室	平成12年3月
新島研究 第91号 同志社社史資料室	平成12年2月	弘前大学五十年史 通史編 弘前大学	平成11年12月
北海道立文書館 研究紀要 第15号 北海道立文書館	平成12年3月	弘前大学五十年史 資料編 弘前大学	平成11年1月
北海道立文書館 史料集 第15 北海道庁規集 第I期 庁令等布達編(二) 明治21年		東北大学記念資料室資料目録2 明治四十四年度以降「寄附関係書類」収載文書目録 東北大学記念資料室	平成12年3月
北海道立文書館	平成12年2月	立命館百年史紀要 第8号 立命館百年史編纂室	平成12年3月
北海道立文書館 所蔵資料目録15 開拓使文書(6) 北海道立文書館	平成12年3月	新制日本女子大学成立関係資料 -GHQ/SCAP文書を中心に-	
北海道立文書館 所蔵公文書件名目録15 札幌県治類典(4) 北海道立文書館	平成12年3月	日本女子大学成瀬記念館 大学論集 第30集 1999年度	平成12年3月
渋沢研究 第12号 渋沢史料館	平成11年10月	広島大学大学教育研究センター 高等教育研究叢書60 学部教育改革の展開	平成12年3月
論座 特集 大学改革元年 討論 有馬朗人×蓮實重彦 東大は生き残れるのか 朝日新聞社	平成12年2月	広島大学大学教育研究センター 高等教育研究叢書59 フランス高等教育制度の概要 -多様な高等教育機関とその課程-	平成12年1月
学士会会報 第826号 社団法人学士会	平成12年1月	近世之醇儒 小柳司気太 小柳司気太博士顕彰記念誌編纂委員会	平成12年1月
中央大学史紀要 第11号 中央大学大学史編纂課	平成12年3月	暗雲に蒼空を見る 平生鈺三郎 P H P 研究所(甲南学園広報室より)	平成11年3月
成瀬記念館 1999 NO.15 日本女子大学成瀬記念館	平成11年12月	平生鈺三郎自伝 甲南学園広報室	平成11年4月
平生鈺三郎伝 小川守正・上村多恵子	平成11年12月	平生鈺三郎-人と思想- 甲南学園広報室	平成8年3月
東京外語会会報 NO.88 独立百周年(建学126年)記念行事記録号 東京外語会	平成12年3月	甲南大学総合研究所 叢書9 平生鈺三郎の総合的研究 甲南学園広報室	平成11年11月
立教学院百二十五年史 資料編第4巻 学校法人立教学院	平成12年3月	武蔵学園史年報 第五号 武蔵学園記念室	平成1年3月
			平成11年12月

向陵 VOL.42 NO.1		宮城学院資料室年報－信・望・愛－1999年度 第6号	
一高同窓会	平成12年4月	学校法人宮城学院資料室	平成12年3月
大学史紀要 紫紺の歷程 第4号		SHIZUOKA UNIVERSITY 2000	
明治大学総務部歴史編纂事務室	平成12年3月	静岡大学	平成12年
歴史編纂事務室報告 第二十一集 明治大学と校友(Ⅱ)		琉球大学 なかゆくい 開学50周年記念特集号	
明治大学総務部歴史編纂事務室	平成12年3月	琉球大学広報委員会	平成12年
東京都立大学五十年史		和歌山県立医科大学看護短期大学部年報 平成10年度	
東京都立大学事務局企画調整課	平成12年3月	和歌山県立医科大学看護短期大学部	平成11年12月
PHOTO都立大学の50年		文京ゆかりの作詞・作曲家－唱歌・童謡－	
東京都立大学事務局企画調整課	平成11年11月	文京ふるさと歴史館	平成12年5月
国家公務員倫理教本		写真で見る弘前大学の50年 1949-1999	
国家公務員倫理審査会	平成12年	弘前大学	平成11年5月
記念誌 長崎県立女子短期大学のあゆみ		文京公会堂とその時代	
長崎県立女子短期大学	平成12年3月	文京ふるさと歴史館	平成12年2月
学士会会報 第827号		筑波大学保健管理センター 25周年記念誌	
社団法人学士会	平成12年4月	筑波大学保健管理センター	平成11年12月
野間教育研究所所蔵 学校沿革史誌目録(1999年版)		東京銀杏会会員名簿 平成11年5月	
財団法人野間教育研究所	平成11年	東京銀杏会	平成11年5月
サティア<あるがまま>第38号		近代日本研究 16	
東洋大学井上円了記念学術センター	平成12年4月	慶應義塾福澤研究センター	平成12年3月
機械屋の見た明治の西洋(下山秀久関係)		旅順高等学校創立六十周年記念特集改訂増補版年表	
柴田 寛	平成12年4月	「向陽2000年別刷」	
金沢大学写真集		旅順高等学校向陽会	平成12年5月
(株)六甲出版	平成11年12月	パイディア 5・6合併号(熊本大学大学教育研究センター 広報)	
学習院大学五十年史 上巻		熊本大学大学教育研究センター	平成12年3月
学習院大学五十年史編纂委員会	平成12年3月	大学教育年報 第3号	
国際弁護士の100年 1897-1997		熊本大学大学教育研究センター	平成12年3月
青木・クリステンセン・野本法律事務所	平成11年4月	九州大学教育学部五十年史	
隋想 逆転の視線		九州大学教育学部	平成12年5月
高村健一郎	平成11年7月	野間教育研究所紀要第43集 教育審議会の研究	
目で見る獨協百年 1883-1983		高等教育改革	
獨協学園百年史編纂委員会	昭和58年10月	財団法人野間教育研究所	平成12年6月
沼津市博物館紀要 24		愛鷹山中の謎の遺跡 山居院 -史実が伝説になるとき-	
沼津市明治史料館	平成12年3月	沼津市明治史料館	平成12年7月
外国人が残した日本への功績		高等教育研究叢書61 大学教員の公募制に関する研究	
(株)プランニングコート	平成12年3月	-日本の大学は人材をいかにリクルートするか-	
関西大学年史紀要 第12号		広島大学大学教育研究センター	平成12年3月
関西大学事業局出版部出版課	平成12年3月	高等教育研究叢書62 大学評価の動向と課題	
京大法学部100年のあゆみ		広島大学大学教育研究センター	平成12年3月
京都大学大学院法学研究科・法学部	平成11年11月	高等教育研究叢書63	
立命館百年史紀要 第8号		地方拠点都市における学歴と学歴意識に関する調査研究	
立命館百年史編纂室	平成12年3月	広島大学大学教育研究センター	平成12年3月
独立百周年記念東京外国語大学史抜刷 年表		高等教育研究叢書64	
梅津紀雄	平成11年11月	ドイツの高等教育制度と卒業生の雇用	
関西学院史 紀要 第六号		広島大学大学教育研究センター	平成12年3月
関西学院学院史編纂室	平成12年4月	銀杏 創刊号	
書陵部紀要 第51号		東京銀杏会	平成12年7月
宮内庁書陵部	平成12年3月	中尾武徳遺稿集・戦没学生の手記 「探求録」	
学習院女子短期大学史 図録 半世紀		中尾義孝	平成9年5月
学習院女子大学	平成12年3月	文書館紀要 第13号	
広島大学史紀要 第2号		埼玉県立文書館	平成12年3月
広島大学五十年史編纂室	平成12年3月	要覧 第18号 平成12年度	
論集 視覚の昭和		埼玉県立文書館	平成12年3月
松戸市教育委員会	平成11年3月		

埼玉県立文書館所蔵地図目録第5集 省庁作成地図目録Ⅱ		学士会会報 No.827	
埼玉県立文書館	平成12年3月	社団法人学士会	平成12年4月
埼玉県立文書館所蔵文書目録第39集		徳島大学五十年史	
西川家文書目録(その1)		徳島大学50年史編集委員会	平成12年6月
埼玉県立文書館	平成12年3月	それぞれの神戸大学教育学部 回想でつづる50年	
サティア<あるがまま>第39号		神戸大学教育学部五十年史編集委員会	平成12年8月
東洋大学井上円了記念学術センター	平成12年7月	学士会会報 No.829	
北見工業大学創立40周年記念誌		社団法人学士会	平成12年10月
北見工業大学	平成12年6月	向陵	
町史を彩る巨匠たち(篆刻家石井雙石関連)		一高同窓会	平成12年10月
大網白里町教育委員会	平成12年3月	拓殖大学百年史研究 5号	
神戸国際大学30周年記念史		拓殖大学創立百年史編纂室	平成12年7月
神戸国際大学	平成12年3月	試行授業「大学とは何か-ともに考える-」の記録 平成11年度	
日本赤十字看護大学創立15周年記念誌		九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト(C)	
日本赤十字看護大学	平成12年5月	九州大学大学史料室	平成12年3月
旧制高等学校研究必携(第1版)		九州大学 大学史料叢書 第8輯 九大風雪記	
旧制高等学校記念館	平成12年8月	九州大学大学史料室	平成12年3月
鹿児島大学五十年史		九州大学大学史料室所蔵 史料目録	
鹿児島大学	平成12年5月	九州大学大学史料室	平成12年7月
戦後教育史研究 第14号		龍谷大学三五〇年の歩み	
明星大学戦後教育史研究センター	平成12年6月	龍谷大学	平成元年10月
横浜開港資料館紀要 第18号		ある國文學者の生涯	
横浜開港資料館	平成12年3月	薩村作	昭和31年6月
日記史料叢書 [I] 佐久間権蔵日記第二集		本郷	
横浜開港資料館	平成12年3月	木下順次	昭和58年3月
横浜開港資料館報『開港のひろば』復刻版Ⅱ(第35号~第67号)		お雇いフランス人の研究	
横浜開港資料館	平成12年3月	澤 護	平成3年3月
咸臨丸 太平洋を渡る 遣米使節140周年		岩手大学五十年史	
横浜開港資料館	平成12年8月	岩手大学	平成12年6月
日本銀行所蔵銭幣館古文書目録		神戸国際大学史資料 第一集	
日本銀行金融研究所	平成12年7月	新しい社会 新しい大学 学校と社会の基本的関係	
野間教育研究所の歩み		神戸国際大学出版部	平成9年9月
財団法人野間教育研究所	平成12年6月	神戸国際大学史資料 第2集	
明治の啓蒙思想家加藤弘之とその時代		創立者八代斌助師父の思い出	
武田良彦	平成11年11月	神戸国際大学出版部	平成12年9月
金沢大学50年史 部局編		エコノミスト	
金沢大学50年史編纂委員会	平成11年6月	毎日新聞社	昭和60年6月
遙かなり向陵敗戦前後の旧制一高と私の青春		中央大学百年史 編集ニュース 第三十四号	
辻幸一	平成11年10月	中央大学百年史編集委員会専門委員会	平成12年9月
早稲田大学史記要 第32巻		行吉学園六十周年記念史誌	
早稲田大学大学史資料センター	平成12年7月	神戸女子大学・神戸女子短期大学・神戸女子大学瀬戸短期大学	
春尚浅き-敗戦から甦る一高		学校法人 行吉学園	平成12年11月
一高23年文集の会	平成11年4月		
教育勅語成立史天皇制国家観の成立<下>			
梅溪昇	平成12年8月		
立命館百年史 資料編一			
立命館百年史編纂委員会	平成12年10月		
愛知大学五十年史 通史編			
愛知大学五十年史編纂委員会	平成12年9月		
明治村			
財団法人 明治村	平成7年4月		
論座 5			
朝日新聞社	平成12年5月		

史料室日誌抄録（平成12年4月～平成12年11月）

- |         |                                                        |                                                                                                                                              |                                                            |
|---------|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 4. 15 土 | 第5回平賀文書研究会開催                                           | 9. 20 水                                                                                                                                      | 「全国大学史資料協議会2000年度総会ならびに全国研究会」出席のため神戸女学院、関西学院、甲南大学へ出張（～22日） |
| 4. 25 火 | 平成12年度新規採用職員研修で講義                                      | 10. 5 木                                                                                                                                      | 第50回東京大学史料の保存に関する委員会開催                                     |
| 4. 27 木 | 国立大学協会50周年記念行事準備委員会に出席 全国大学史資料協議会東日本部会研究部会に出席（於：國學院大学） | 10. 14 土                                                                                                                                     | 保存委員会委員交替                                                  |
| 5. 10 水 | 「旧制高等学校研究必携」編纂のため旧制高等学校記念館へ出張                          | 10. 25 水                                                                                                                                     | 中野室員、後期採用職員研修にて講義                                          |
| 5. 18 木 | 全国大学史資料協議会東日本部会の幹事会と総会に出席（於：東京大学）                      | 11. 7 火                                                                                                                                      | 中野室員、掛主任研修にて講義                                             |
| 5. 25 木 | 愛知県碧南市立西端中学校の生徒3人が修学旅行中、訪問学習の一環で史料室に入室                 | 11. 17 金                                                                                                                                     | 第2回図書館総合展へ（於：東京国際フォーラム）                                    |
| 6. 1 木  | 国立大学協会50周年記念行事準備委員会に出席                                 | 11. 26 日                                                                                                                                     | 第6回平賀文書研究会開催                                               |
| 6. 15 木 | 全国大学史資料協議会東日本部会研究部会に出席（於：東海大学）                         | この間の閲覧者数                                                                                                                                     |                                                            |
| 6. 24 土 | 学徒動員・学徒出陣関係調査のため、イギリスへ出張（～7/6）                         | 学内                                                                                                                                           | 11名                                                        |
| 6. 28 水 | 史料室にて雨漏り発生<br>（他に7/3, 7/5, 7/10, 8/8, 9/11, 11/21）     | 学外                                                                                                                                           | 42名                                                        |
| 7. 14 金 | 各委員へ大学史史料室の利用状況等資料を学内便で送る                              | 主な学外閲覧者所属機関                                                                                                                                  |                                                            |
| 8. 6 月  | 旧制高等学校記念館主催「夏期セミナー」に出席（～7日）                            | 中央公論新社、千代田区立四番町歴史民族資料館、京都大学、台湾師範大学、（私）城北高校、東京芸術大学、慶應義塾大学、富山医科薬科大学、フジテレビジョン、（株）記録映画社、東京農業大学、奈良女子大学、大正大学、愛知県碧南市立西端中学校、毎日新聞社、茨城県竜ヶ崎土木事務所、韓国世界日報 |                                                            |
| 8. 31 木 | 事務補佐員、末本千佳退職                                           | 文献撮影・複写許可件数                                                                                                                                  | 10件                                                        |
| 9. 1 金  | 事務補佐員、村上珠希採用                                           | 調査（照会）件数                                                                                                                                     | 58件                                                        |
| 9. 13 水 | 逗子開成高校教員（9名）による施設訪問及びレクチャー                             |                                                                                                                                              |                                                            |

表紙の説明

「明治十七年六月東京大学予備門本鬘生徒学年試業優劣表」

大きさ縦51.8字×横67.5字、木版刷の大版の史料である。予備門本鬘は明治15年6月に医学部予科を統合した結果、それまでの法理文学系統の予備門学科を改称したもの。英語学専修生、第3級、第2級、第1級に区分された生徒は248人に上る。その生徒一人一人の試験点数とともに、総点、平均点、効（及落第）、罰、府県を表示している。初年級にあたる第3級の学科は、修身学、和漢文、書取、文法・作文、読方、釈解、代数学、幾何学、日本歴史、外国歴史、生理学、健全学、画学の13科目であった。年々在籍者は少なくなり、この年の最高級生は41人である。錚々たる顔ぶれといっている。木内重四郎、狩野亨吉、沢柳政太郎、上田万年などを挙げることが出来る。生徒（学生）の成績順の配列がなくなるのは、これから35年間ぐらい先のことになる。

題字 森 亘元総長

東京大学史史料室ニュース 第25号

発行日：2000年11月30日（年2回発行）

編集・発行：東京大学史史料室

東京都文京区本郷7-3-1

電話：03（5841）2077（直）

印刷所：株式会社 芳文社

Archives Section of the University of Tokyo

東京都新宿区新宿3-12-4